安土桃山時代

名前

問1　豊臣秀吉のキリスト教政策と南蛮貿易の関係について述べた文として、適切なものはどれですか。（2021年 山口県公立入試 類似）

1. 日本人の海外渡航を一切禁じることで、宣教師との接触を物理的に断絶させた。
2. 出島を建設して宣教師をそこに隔離し、布教活動を厳しく監視しながら貿易を行った。
3. キリスト教の布教を禁じると同時に、すべての外国船の来航を禁止した。
4. 宣教師の布教を禁じて国外追放を命じたが、貿易による利益は重視して継続させた。

問2　平安時代末期から鎌倉時代にかけて、日本国内では自ら貨幣を鋳造する代わりに、中国から「宋銭」を大量に輸入して流通させていました。このように輸入銭が広く使われるようになった背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2022年 島根県公立入試 類似）

1. 日本国内での銅の産出が完全に止まり、貨幣の原料が一切不足したため。
2. 朝廷が律令制度を強化し、国家の権威を示すためにあえて外貨を採用したため。
3. 日宋貿易の拡大に伴い、国内の商業活動が盛んになって貨幣の需要が高まったため。
4. 幕府が国内産の貨幣の使用を禁じ、外国の貨幣を使うよう法律で強制したため。

問3　14世紀頃からイタリアを中心に西ヨーロッパで興った、古代ギリシャや古代ローマの文化を参考に、人間を生き生きと描こうとした文芸復興の動きを何と呼びますか。（2019年 三重県公立入試 類似）

1. 啓蒙思想
2. 宗教改革
3. 産業革命
4. ルネサンス

問4　戦国時代の交通と経済に関する記述として、織田信長が行った政策の背景や意図を説明したものとして適切なものはどれですか。当時の軍事・経済的な状況を踏まえて選びなさい。（2022年 山口県公立入試 類似）

1. 有力な農民から武器を取り上げて反乱を抑え、農村の秩序を安定させようとした。
2. 農民の移動を厳しく制限し、土地に縛り付けることで年貢を確実に徴収しようとした。
3. 物資の輸送や家臣との連絡を迅速にするため、道路整備とあわせて交通の障壁を取り除いた。
4. 外国船が日本各地の港に自由に寄港できるよう、各地の検問をすべて撤廃した。

問5　安土桃山時代の外交や社会の動きについて述べた文として正しいものを、次のうちから1つ選びなさい。（2025年 岩手県公立入試 類似）

1. 元軍の襲来を契機として、九州沿岸の警備を強化するために異国警固番役が設置された。
2. ポルトガルやスペインとの南蛮貿易により、パンやカステラなどの新しい文化が持ち込まれた。
3. 勘合を用いて明と貿易を行い、銅銭や生糸などを大量に輸入した。
4. 朱印状を与えられた船が東南アジアへ渡航し、各地に日本町が形成された。

問6　五層七階の壮大な天守閣を備えた安土城を築き、軍事・政治の両面で拠点とした戦国大名が、室町幕府を滅ぼした後に目指した目標として、最も適切なものはどれですか。（2020年 愛媛県公立入試 類似）

1. 天下統一
2. 武家諸法度の制定
3. 公武合体の推進
4. 鎖国の完成

問7　豊臣秀吉は、太閤検地によって土地の生産力を石高で表し、刀狩によって農民から武器を没収しました。これらの政策を通じて、戦う役割を持つ武士と、農業に従事して年貢を納める百姓の身分の区別を明確にしたことを何といいますか。（2023年 富山県公立入試 類似）

1. 守護領国制
2. 寄合
3. 兵農分離
4. 班田収授

問8　戦国時代から安土桃山時代にかけて、織田信長や豊臣秀吉といった有力な武将たちが、千利休の提唱した「わび茶」を政治の場に取り入れた背景として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 岐阜県公立入試 類似）

1. 茶道を通じた精神修行を義務付けることで、武士が戦場へ出ることを拒まないように教育したから。
2. 質素な茶室を奨励することで、戦費を調達するために領民へ倹約を促すモデルケースとしたから。
3. 静寂な茶室という空間が、武将同士の密接な交渉や家臣との信頼関係を築く重要な場となったから。
4. わび茶が公家の独占的な教養であったため、公家社会とのパイプを築く唯一の手段だったから。

問9　安土桃山時代の文化は、大名や豪商の富を背景とした豪華な特徴を持ちますが、その一方で千利休によって確立された、独自の美意識を持つ文化の事例を次の中から選びなさい。（2023年 東京都公立入試 類似）

1. わび茶
2. 浮世絵
3. 歌舞伎
4. 水墨画

問10　1575年、織田信長が大量の鉄砲を組織的に運用し、当時最強と謳われた武田勝頼の騎馬隊を破った戦いを何といいますか。（2026年 群馬県公立入試 類似）

1. 長篠の戦い
2. 関ヶ原の戦い
3. 桶狭間の戦い
4. 賤ヶ岳の戦い

問11　豊臣秀吉による全国統一の過程で行われた太閤検地と、それによって定められた「石高」について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2022年 山形県公立入試 類似）

1. 土地の面積のみを調査の対象とし、実際に米が収穫されるかどうかは考慮に入れなかった。
2. 一つの土地に対して複数の権利者が重なり合って存在することを認め、年貢の徴収を安定させた。
3. 升の大きさを統一し、土地ごとに予想される米の収穫量を数値化することで、年貢を課す基準を定めた。
4. 土地の売買価格を基準にして、収穫された米ではなく現金を納める制度へと変更した。

問12　豊臣秀吉が実施した政策のうち、全国で「升（ます）」などの単位を統一して土地の広さや予想収穫量を調べ、耕作者の名前を帳簿に記録することで、年貢を確実に取り立てようとした取り組みを何というか。（2025年 北海道公立入試 類似）

1. 太閤検地
2. 地租改正
3. 班田収受の法
4. 墾田永年私財法

問13　安土桃山時代、織田信長や豊臣秀吉に仕え、豪華な文化が栄えるなかで、無駄を徹底的に省いた質素で静かな美しさを重んじる「わび茶」を大成させた人物は誰ですか。（2024年 栃木県公立入試 類似）

1. 世阿弥
2. 雪舟
3. 狩野永徳
4. 千利休

問14　16世紀のヨーロッパでは、ルターやカルヴァンらによる宗教改革が起こり、新しい教派であるプロテスタントが勢力を広げました。この動きに直面したカトリック教会が、自らの組織を立て直し、教勢を回復するために取った行動として最も適切な説明はどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）

1. プロテスタントの勢力拡大に対抗し、イエズス会などの修道会を通じて海外での布教を積極的に推進した。
2. 十字軍の遠征が失敗したため、教皇の権威を放棄し、各国の国王が教会を直接支配する制度へと移行した。
3. 産業革命の進展に合わせて、東インド会社と協力しながらアジアでの植民地支配を強化することに専念した。
4. ルネサンスの人間中心の考え方を取り入れ、キリスト教の布教を中止して科学技術の振興に力を入れた。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 宣教師の布教を禁じて国外追放を命じたが、貿易による利益は重視して継続させた。	秀吉の政策の特徴は、キリスト教の布教（宗教的影響）を強く警戒する一方で、鉄砲や火薬、生糸などの物資をもたらす南蛮貿易（経済的利益）は切り離して考え、奨励した点にあります。日本人の海外渡航禁止や出島の建設は、さらに時代が下った江戸時代初期の対外政策です。
問2	答え 3 日宋貿易の拡大に伴い、国内の商業活動が盛んになって貨幣の需要が高まったため。	平安時代中期以降、日本では貨幣を鋳造する技術や制度が衰退していましたが、平氏による日宋貿易の推進などにより、経済活動が活発化しました。急増する貨幣需要に対し、日本側は金や木材などを輸出し、代わりに信頼性の高い宋銭を大量に輸入することで、年貢の銭納化などが進むきっかけとなりました。
問3	答え 4 ルネサンス	14世紀のイタリアから始まったこの動きは、中世の神中心の考え方から離れ、人間中心の文化を再生させようとするものでした。日本語では「文芸復興」と訳され、古代ギリシャや古代ローマの古典を学び直すことで、文学や美術において人間性の自由や個性を表現する文化が発展しました。
問4	答え 3 物資の輸送や家臣との連絡を迅速にするため、道路整備とあわせて交通の障壁を取り除いた。	信長は領国内の道づくりを積極的に進め、それまで各地の勢力が通行料を徴収するために設けていた関所を廃止しました。これにより、商人の自由な往来による経済の活性化だけでなく、戦時における軍隊の移動や家臣との迅速な情報伝達が可能になり、軍事面でも大きな利点を得ることができました。
問5	答え 2 ポルトガルやスペインとの南蛮貿易により、パンやカステラなどの新しい文化が持ち込まれた。	安土桃山時代には、九州の港などを中心にポルトガルやスペインとの南蛮貿易が行われ、パンやカステラといった食文化やキリスト教などが日本に伝わりました。
問6	答え 1 天下統一	織田信長は、足利義昭を追放して室町幕府を実質的に滅亡させた後、天下統一を目指して勢力を拡大しました。その象徴として築かれた安土城は、高い天守を持つ新しい形式の城であり、権威を示す政治的な役割も担っていました。
問7	答え 3 兵農分離	豊臣秀吉は、全国規模で土地調査を行う「太閤検地」と、農民から刀や脇差などの武器を取り上げる「刀狩」を連動させて実施しました。これにより、それまで農業を行いながら合戦にも参加していた「地侍」などの存在が消え、支配階級である武士と、生産者である百姓という二つの身分が制度的に固定されました。これが近世社会の基礎となる仕組みです。
問8	答え 3 静寂な茶室という空間が、武将同士の密接な交渉や家臣との信頼関係を築く重要な場となったから。	当時の有力な武将たちは、茶の湯を単なる趣味ではなく「御茶湯御政（おちゃのゆごせい）」として政治に利用しました。狭く密閉された茶室は機密保持に適しており、そこで行われる茶会は、恩賞として名品を授けたり、重要な政治的決断を下したりする、武家社会の秩序維持のための特別な儀礼として機能しました。
問9	答え 1 わび茶	安土桃山時代の文化は、城郭建築や障壁画に代表される「桃山文化」と呼ばれ、非常に壮麗で活気に満ちていました。その中にあって、堺の商人である千利休は、質素な中にある美しさを見出す「わび茶」を大成させました。これは、武士の精神修養としての側面も持ち、現代まで続く日本の伝統文化の基礎となりました。
問10	答え 1 長篠の戦い	織田信長が三河国の長篠城を巡って武田勝頼と戦った出来事です。信長は足軽に鉄砲を持たせて組織的に一斉射撃を行うという新しい戦法を採用し、それまでの個人の武勇を重んじる戦い方から、集団による合理的な戦術へと日本の合戦のあり方を大きく変えました。
問11	答え 3 升の大きさを統一し、土地ごとに予想される米の収穫量を数値化することで、年貢を課す基準を定めた。	太閤検地では「京升」を用いて升の容積を統一し、土地の質や面積に基づいて「石高」という収穫量の基準を算出しました。これにより、一つの土地に一人の耕作人を登録する「一地一作人の原則」が確立され、農民から直接年貢を徴収する仕組みが整いました。この石高制は、その後の江戸幕府による支配の基礎ともなりました。
問12	答え 1 太閤検地	それまでバラバラだった土地の測量基準を全国で統一し、一つの土地に対して一人の耕作者（農民）を登録しました。これにより、古い時代の荘園制度が完全に消滅し、農民から直接年貢を徴収する仕組みが確立されました。
問13	答え 4 千利休	豊臣秀吉に重用された茶人であり、禅の精神を取り入れた「わび茶」を完成させました。当時の武士たちの間では、茶の湯は単なるたしなみだけでなく、政治的な交渉や精神修養の場としても極めて重要な役割を果たしていました。
問14	答え 1 プロテスタントの勢力拡大に対抗し、イエズス会などの修道会を通じて海外での布教を積極的に推進した。	16世紀のヨーロッパでは宗教改革によりプロテスタントが台頭し、カトリック教会の権威が揺らぎました。これに対し、カトリック教会は内部改革を行うとともに、失った勢力を海外で補おうとする「対抗宗教改革（対抗宗教自浄運動）」を展開しました。その中心となったのがイエズス会であり、彼らはアジアやアメリカ大陸への布教を強力に進めることで、キリスト教（カトリック）の拡大を図りました。